

令和7（2025）年度 阪南大学 外部評価
外部評価機関による評価（外部評価表）

評価実施日：2025年 8月 23日
評価機関名：株式会社セブン&アイ・クリエイティブリンク
評価ご担当者様：運営サポート部 秋本 和宏

2024年度事業の評価を実施した結果、以下の通り報告します。

評価対象事業名	AI・データサイエンス関連教育体制の整備
評価点	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

評価の概評（自由記述）

阪南大学は、Society5.0の実現に向けて、AI・データサイエンス教育の体系的な整備を先進的に進めており、2024年度も着実な成果を挙げておられると言えます。「AI・データサイエンス入門1」ではB評価相当の履修者数を確保し、教育プログラムの周知・履修促進に向けたガイダンスの実施や、文部科学省「リテラシープラス」認定取得に向けた申請・体制整備など、教育の質向上に向けた努力が見られます。

一方で、「入門2」の履修者数やリテラシーパッケージ修得者数は目標に届かず、最上位認定の取得には至らなかった点は、今後の改善余地と捉えられます。とはいえ、教育体制の整備と改善意欲は高く、今後の発展が期待されます。

評価・助言項目への回答

評価・助言項目1	<p>本学で育成している人材（AI・データサイエンス教育を修了した学生）について、以下の観点から貴社業務または業界全体のニーズとの適合性をご評価いただけますでしょうか。</p> <p>（評価の視点）</p> <ul style="list-style-type: none">● 実務において活用可能な基礎的スキル（データ分析力、AIリテラシー等）が備わっていると感じられるか● 貴社の業務において、即戦力または一定のトレーニングにより活躍が期待できる人材像と一致しているか● 大学教育における育成方針や内容が、将来的な業界課題（例：DX人材の不足、データ利活用の推進）と合致しているか
	<p>阪南大学のAI・データサイエンス教育修了者は、データ分析力やAIリテラシーなどの基礎的スキルを備えており、弊社業務においても、施設運営・企画・マーケティング部門等において、一定の研修を経て即戦力として活躍が期待できます。教育内容はDX人材の育成やデータ利活用の推進といった業界課題と高い整合性があり、今後の人材確保や業務革新に貢献する可能性が十分にあると思われま。</p>
評価・助言項目2	<p>AI・データサイエンスを活用する現場において、新卒人材に以下のような観点からどのような能力・姿勢が求められるとお考えでしょうか。貴社や業界における実務経験に基づき、ご意見を賜れますと幸いです。</p> <p>（評価の視点）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ● 実務で活用できる具体的な知識・技術（例：Excel や BI ツール、Python、SQL、統計解析、機械学習の基礎など） ● 課題設定や仮説構築、データ分析結果をビジネス課題と結びつける力 ● チームでの協働やコミュニケーションを通じた提案力・発信力 ● 目的思考（なぜこの分析をするのかを常に意識できる） ● トライ＆エラーを前向きに繰り返せる柔軟性と学習意欲 ● 業務に役立つ視点で技術を“道具”として活かす姿勢（技術偏重ではないバランス感覚）
<p>AI・データサイエンスを活用する現場では、Excel や Python などの実務的スキルに加え、課題設定や分析結果をビジネスに結びつける力、チームでの提案力が求められます。さらに、目的を意識した分析姿勢や、失敗を恐れず挑戦する柔軟性、技術を業務に活かすバランス感覚も重要です。</p>	
<p>評価・助言項目 3</p>	<p>本学の AI・データサイエンス教育を、より実務的で業界ニーズに即したものとするために、以下のよう な観点からご助言を頂けると幸いです。</p> <p>（評価の視点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 貴社または業界において、大学との連携が有効であると感ぜられる分野・テーマはありますか？（例：データ活用に関する共同研究、課題提供型 PBL、実習機会など） ● 大学生が実践的なスキルを身につけるために、どのような実務経験・現場理解の機会があると望ましいでしょうか？（例：インターンシップ、OJT 型演習、職場訪問等） ● 貴社や業界が大学と連携する際に、成果につながりやすい条件や連携のあり方があればお教えてください
<p>阪南大学の AI・データサイエンス教育をより実務的にするためには、企業との連携による課題提供型 PBL や実データを活用した共同研究が有効です。学生が現場理解を深めるには、インターンシップや OJT 型演習、職場訪問などの実務体験が望ましく、業務の流れや課題解決のプロセスを体感することが重要です。弊社と継続的に取り組んでいる各ゼミ単位の OJT 型演習においても、AI・データサイエンス教育を前提とした連携をはかることでさらに成果が上がると考えられます。</p>	

令和7（2025）年度 阪南大学 外部評価
外部評価機関による評価（外部評価表）

評価実施日：2025年8月23日
評価機関名：株式会社セブン&アイ・クリエイティブリンク
評価ご担当者様：運営サポート部 秋本 和宏

2024年度外部評価を実施した結果、以下の通り報告します。

評価対象事業名	企業連携による教育の推進
評価点	⑤ ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

評価概評（自由記述）

阪南大学は、社会連携ポリシーに基づき、企業・自治体との協働を通じて教育・研究・社会貢献を一体的に推進しており、2024年度は新規事業5件、Web掲載75件と、いずれもA評価基準を達成しています。特に、セブンパーク天美との連携では、定例会議やイベント協力、ゼミ活動を通じて、学生の主体的な学びと企業の地域貢献が融合しており、実践的教育の好例となっています。その他にも、中小企業との連携や調査研究、地域イベントへの参加など、学生が社会課題に触れながら実務的な力を養う機会が豊富に提供されています。こうした取り組みは、大学の知的資源を地域に還元し、持続可能な発展に寄与するものであり、今後も企業との連携を深化させることで、教育効果と社会的価値のさらなる向上が期待されます。総合的に見て、本事業は高い成果と改善意欲を示しており、A評価に相応しい内容と判断いたします。

評価・助言項目への回答

評価・助言項目1	<p>本学が取り組む企業・地域連携活動について、以下の観点から「実効性」「継続性」に関するご評価・ご助言をいただけますと幸いです。</p> <p>（評価の視点）</p> <ul style="list-style-type: none">● 実際の活動が、企業や地域の課題解決に具体的な貢献をしていると感じられますか？● 学生や大学側の提案・参加が、現場での実務や企画に一定の価値や効果をもたらしていると感じでしょうか？● 今後も貴社として、同様の取り組みや新たな連携を進めたいと思えるような基盤や仕組みが大学側にあると感じられますか？● 担当者間のコミュニケーションや運営体制など、継続的な連携に必要な信頼性・柔軟性が確保されているとお考えでしょうか？
<p>阪南大学の企業・地域連携活動は、実社会の課題に対して具体的な貢献を果たしており、学生の提案や参加が現場での企画や運営に一定の価値をもたらしています。特にセブンパーク天美との連携では、定例会議やイベント協力を通じて、教育と地域貢献が融合した実効性の高い取り組みが展開されています。大学側には継続的な連携を支える体制や柔軟な対応力があり、企業としても今後の連携を前向きに検討できる基盤が整っていると評価できます。</p>	

<p>評価・助言項目 2</p>	<p>本学の学生が、企業や地域と連携する実践的な学びを通じて、どのような力を身につけていることが望ましいとお考えでしょうか。以下の観点を参考に、企業側として期待される教育的成果についてご意見をいただけますと幸いです。</p> <p>(評価の視点)</p> <p>以下のようなスキルや姿勢について、重視されるものはありますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ビジネスの基本的な理解（企業の仕組み、顧客視点、収益構造など） ● 実社会の課題を自ら発見し、分析・提案できる力 ● チームでの協働、プレゼンテーション、報連相などの実務基礎力 ● 知識を応用し、現場にあわせて柔軟に行動できる力 ● 最後まで責任をもって取り組む姿勢や社会人基礎力 <p>過去のご経験から、「印象に残った学生の取り組み」や「もう一步だった点」など、教育改善に役立つご示唆があればご記入ください。</p>
<p>企業・地域との連携を通じて、学生にはビジネスの基本理解や顧客視点、収益構造などの実務知識を身につけることが望まれます。また、課題発見・分析・提案力、チームでの協働、報連相、プレゼン力などの実務基礎力も重要です。現場に応じた柔軟な対応力や、最後まで責任を持って取り組む姿勢は、社会人としての基礎力として重要な要素となります。実際の活動（学園祭の連携）では、学生の積極性が印象的であるとともに、内容についても年々レベルが上がっていると感じておりました。継続的な発展をより期待しております。</p>	
<p>評価・助言項目 3</p>	<p>今後、企業との連携をより深めていくにあたり、大学に対してどのような役割や取り組みを期待されますか。以下の観点を参考にしながら、ご意見をお聞かせください。</p> <p>(評価の視点)</p> <p>大学の役割として、どのような点をより強化・発揮してほしいと感じますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 課題解決型学習（PBL）などを通じた学生の実務力育成 ● 地域課題やビジネステーマに即した連携プロジェクトの企画・提案力 ● 教職員やゼミ担当教員との連絡・調整のスムーズさ ● 実施後の成果報告や振り返りの丁寧さ・透明性 <p>企業側が大学との連携を続けやすくするために、改善や工夫が望まれる点があればご教示ください（例：連携の窓口一本化、年間スケジュールの共有、成果発信の支援 等）</p> <p>ご自由に感じられたことや、具体的なご提案をぜひお聞かせいただけますと幸いです。</p>
<p>今後、企業との連携をさらに強化するためには、課題解決型学習（PBL）を通じた学生の実務力育成を継続的に推進するとともに、地域課題や業界ニーズに即したテーマ設定・企画力の強化が重要です。企業側としては、大学との連携を円滑に進めるために、教職員やゼミ担当教員との連絡調整のスムーズさや、実施後の成果報告・振り返りの丁寧さが信頼構築に直結すると感じています。具体的な提案としては、①連携窓口の一本化による問い合わせ・調整の効率化、②年間スケジュールの共有による計画的な連携推進、③成果発表会や報告書の形式統一による情報の活用促進などが挙げられます。</p> <p>弊社との連携においてはこうした運営面の工夫がなされていることで、継続的な関与がしやすくなり、教育効果と社会的価値の両立が具現化されているのではと感じております。</p>	
<p>評価・助言項目 4</p>	<p>貴社が運営する施設や商業空間を活用した大学との連携について、今後以下のような観点から、実現しうる取組や新たな可能性についてご意見をいただけますと幸いです。</p>

(評価の視点)

学生との共創活動として、今後展開可能とお感じになる内容はありますか？

- 来場者向けイベントの企画・運営（例：地域活性・文化発信イベントなど）
- 店舗や空間の活用提案（例：ポップアップショップ、マーケティング実習など）
- 商業施設利用者への調査・分析・サービス提案（例：ゼミ活動を通じたフィールド調査）

「商業空間での学び」がより価値あるものとなるために、大学に期待する準備・配慮点がありますか？（例：学外のマナーや接遇の教育、情報発信の計画性、リスク管理体制 など）

こうした実践的な活動を通じて、貴社・大学・学生の三者にとって意義ある共創の形がどのようにあり得るか、ご自由にご提案いただければ幸いです。

商業空間を活用した大学との連携は、学生の創造力と実務力を育む貴重な機会であり、今後も多様な共創活動が展開可能と考えます。特にセブンパーク天美のスタジアムを活用したイベントの企画・運営や、地域文化・課題をテーマにした発信型イベントは、施設の集客力向上と学生の実践力育成の両面で効果的です。また、ポップアップショップやレンタルルーム、フードコート、その他共有部の空間活用提案、マーケティング実習などを通じて、商業施設の価値向上にも寄与できます。ゼミ活動によるフィールド調査や利用者分析を基にしたサービス提案も、AI・データサイエンス領域と連動することで実務に直結する学びとしてさらに有意義となると考えられます。大学側には、学外でのマナー教育や接遇指導、情報発信の計画性、ビジネス領域における法令の遵守やリスク管理体制の整備など、現場との信頼関係を築くための準備が期待されます。商業施設（DV）業界においてもここまでの取り組みを継続してきた施設は稀有であり、こうした取り組みを通じて、企業・大学・学生の三者が互いに学び合い、地域社会に貢献する持続可能な共創モデルとしてさらに発展させていければと考えております。